

## 第2回 小諸図書館を考える会

日時 平成20年11月24日(祝・月)13:30~16:00

場所 市立小諸図書館 2階 会議室

出席者 約50名

1.基調講演 演題：市民参加と市民協働の図書館づくりのために  
講師：長野県図書館協会常務理事 事務局長 宮下明彦氏

2.新図書館準備室経過説明

3.「アメリカの図書館紹介」新図書館準備室

4.ワークショップ

～小諸図書館に望むもの～

### 【会議録】

- ・ 駅前に図書館を造ることになった経過は？
- ・ 図書館が老朽化しており、以前から建替え要望があったこと、駅舎も老朽化しておりバリアフリーになっていないことがあり、また、まちづくり交付金第2期の申請に伴い、駅舎併設型の図書館が対象事業になり、補助金を受けることが可能であり、市の負担が軽くなることから取り組んだ。〔企画課〕
- ・ 現在の検索システムの利用の仕方についてどうなっているか
- ・ (図書館より回答)
- ・ もし、建替えるなら環境に配慮して欲しい。雨水利用・太陽光発電など。
- ・ インターネットを利用する際、フィルタリングシステムのセキュリティー設定が高すぎると困る面(アクセス不能等)があるので検討して欲しい(他の図書館の例)
- ・ 上田市はフィルタをかけていないが問題は無い。苦情も無い。〔宮下先生〕
- ・ 駐車場の設置について、駅舎併設図書館の他の事例を研究して欲しい。
- ・ 上田情報ライブラリーは、隣の立体駐車場に240台駐車可能。情報ライブラリーは1日620人の利用者のうち半分は車での利用者である。〔宮下先生〕
- ・ 宮城県立図書館はアクセスが悪く、車前提に考えられた図書館である。
- ・ 岐阜駅にも図書館がある。道を挟んだ反対側に駐車場がある。
- ・ 学校等との連携についてはどうか。人手の問題もあり、本の物流の問題もあるが。

- ・ 上田市は平成 9 年にスタートした。子どもが直接予約する方法を取ったが、調べ学習中心に利用することを前提にしていたが、マンガが多くなってしまった。その後、学校との連携により、だんだんと利用の方法が確立されてきた。エコーカーは配送車を使用している。始めは公共図書館間を結んでいたが、学校に広がった。〔宮下先生〕
- ・ 情報ライブラリーは、構想からオープンまでどれくらいかかったか。また、苦労した点は。
- ・ 10 年かかっている。平成 8 年 3 月の協議会から 14 年 12 月 25 日の決定まで 7 年間で住民合意形成にかけている。「何故駅前に図書館か」、「静かな所ではないのか」等意見もあった。〔宮下先生〕
- ・ 駅前のような交通の要所が、これからの図書館にはふさわしいと説明し、合意形成にたどり着いた。平成 15 年から事務的な問題等をクリア。平成 16 年 4 月オープンした。〔宮下先生〕
- ・ 小諸市にも、小諸図書館を核としたネットワークが欲しい。
- ・ 上田市では昭和 45 年に公民館横に図書館ができた。駅前に情報ライブラリーが出来たが、資料的には特色分けをしているか。小諸市でも駅に図書館を進めているが、メリット・デメリットを教えて欲しい。車を使わない利用者、車を使う利用者があると思うが。
- ・ 建設計画の中で、駅前ビルに広域的な施設を入居させる予定で進めていた。4 つの候補があり、図書館・福祉施設・女性関係・国際交流であったが、集客力は図書館が一番と言うことで図書館になった。利用者は通勤・通学者が中心の成人が多くなると想定していたので、ビジネス支援を考えた。特色のある資料は、千曲川について流域全体についての資料（郷土資料等を含めて）を集めている。〔宮下先生〕
- ・ 市民からも駅前で良かったと言われている。〔宮下先生〕
- ・ 中軽井沢でも駅に図書館を計画しているが、駅 1 館で全ては無理と思われる。分館が理想。〔宮下先生〕
- ・ 中軽井沢でもまちづくり交付金を利用した駅舎と図書コーナーを造る話がある。狭いし、駐車場の問題がある。
- ・ 小諸駅から遠い地域のため、図書館は利用したことが無い。
- ・ 地区の公民館を利用した、フリー文庫など、地域の自主的な取り組みで図書館の分館的なものを運営する方法もあるのではないか。〔企画課〕
- ・ 学校とのネットワークも考えたらどうか。
- ・ この取り組みを、住民参加に繋げていけたら良い。